

# 事後評価シート

【評価年月】 平成16年4月

【主管課・室】 水環境部土壤環境課

【評価責任者】 土壤環境課長 太田 進

## 施策名、施策の概要及び予算額

施策名	- 4 土壤環境の保全
施策の概要	<p>環境基準等の設定、見直し            土壤の汚染に係る環境基準等について、科学的な知見の集積等に伴い、基準の設定、見直しを進める。</p> <p>農用地の土壤汚染対策            農用地土壤の汚染に起因する有害な農畜産物の生産、農作物等の生育の阻害を防止するため、農用地の土壤の汚染防止等に関する法律に基づく農用地土壤汚染対策を推進する。</p> <p>市街地等の土壤汚染対策            市街地等の土壤汚染対策            有害物質により汚染された土壤による人の健康被害の防止を図るため、平成15年2月に施行された土壤汚染対策法に基づき汚染の状況の把握、及び汚染の除去等の措置を講じることにより、市街地等における土壤汚染対策を推進する。</p> <p>ダイオキシン類に係る土壤汚染対策            人の生命及び健康に重大な影響を及ぼすと考えられているダイオキシン類に係る土壤汚染の未然防止及び汚染土壤の改善を図るため、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく汚染土壤の処理等の対策を推進する。</p>
予算額	2,348,332千円

## 目標・指標、及び目標の達成状況

目標	有害物質による土壤汚染について、土壤環境基準を達成・確保するとともに、土壤汚染による環境リスクを適切に管理し、国民の安全と安心を確保する。
達成状況	有害物質による土壤汚染について、土壤環境基準を達成・確保するための施策を推進するとともに、土壤汚染による環境リスクを適切に管理するため、

土壤汚染対策法に基づき着実に対策を推進している。

下位目標 1 環境基準等の設定、見直しを行う。					
指 標	H13年度	H14年度	H15年度	目標値	H 年度
(参考指標) 環境基準項目数(項目)	28	28	28		
(参考指標) 土壤汚染対策法に基づく指定基準(項目)	-	H14年度 26 (H15.2~)	H15年度 26		
達成状況	<p>環境基準の項目数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の環境項目数 28項目(ダイオキシンを含む)</li> </ul> <p>土壤汚染対策法第5条に基づく指定基準として、土壤溶出量基準26項目及び土壤含有量基準9項目を設定</p> <p>基準項目以外の物質で、汚染のおそれのあるものについて、データ収集及び実態調査を実施した。</p>				

下位目標 2 農用地の土壤汚染対策を着実に推進する。					
指 標	H13年度	H14年度	H15年度	目標値	H 年度
(参考指標) 基準値以上 検出地域の 面積(累積) (ha)	7,217	7,224	-		
(参考指標) 対策地域として指定された地域の 面積(累積) (ha)	H13年度 6,275	H14年度 6,275	H15年度 -		H 年度
(参考指標) 対策事業等 が完了した 面積(累積) (ha)	H13年度 5,872	H14年度 6,054	H15年度 -		H 年度

(参考指標)	H13年度	H14年度	H15年度	H 年度
対策地域を指定解除した面積(累積)(ha)	4,669	4,838	-	
達成状況	<p>農用地土壌汚染対策 ( )は14年度実施分</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基準値以上検出地域の面積(累積) 7,224ha</li> <li>・対策地域として指定された地域の面積(累積) 6,275ha (0ha)</li> <li>・対策事業等が完了した面積 6,054ha (182ha) 基準値以上検出地域の面積に対して83.8%</li> <li>・対策地域を指定解除した面積(累積) 4,838ha (168.9ha)</li> </ul> <p>出典：『農用地土壌汚染防止対策の概要』</p>			

下位目標3	市街地等の土壌汚染対策を着実に推進する。			目標値	H 年度
指標	-	-	H15年度		
(参考指標)			H15年度		
有害物質使用特定施設の使用の廃止による調査対象施設の件数(件)	-	-	528		
(参考指標)			H15年度		H 年度
都道府県知事が土壌汚染状況調査の命令を発出した件数(件)	-	-	3		
(参考指標)			H15年度		H 年度
土壌汚染が認められ指定区域として指定された件数(件)	-	-	14		
(参考指標)	H13年度	H14年度	H15年度		H 年度

ダイオキシン類常時監視地点数(地点)	3,735	3,300	-							
(参考指標)	H13年度	H14年度	H15年度	H 年度						
ダイオキシン類環境基準超過地点数(地点)	1	0	-							
(参考指標)	H13年度	H14年度	H15年度	H 年度						
ダイオキシン類土壤汚染対策地域の指定(累積)(地点)	1	2	2							
達成状況	<p>市街地等の土壤汚染対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有害物質使用特定施設の使用の廃止により法に基づく土壤汚染状況調査の対象となった施設の件数 528</li> <li>・法に基づき都道府県知事が土壤汚染状況調査の命令を発出した件数 3</li> <li>・土壤汚染が認められ指定区域として指定された件数 14</li> </ul> <p>上記の件数は法施行後1年間(H15年2月15日～H16年2月15日)の数である。</p> <p style="text-align: center;">出典：『土壤汚染対策法の施行状況調査結果』土壤環境課調べ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壤汚染対策法の円滑な施行を図るため、法運用の参考となる指針等の策定を実施した。また、汚染原因者でない土地所有者等であって負担能力のない者に対し汚染の除去等に要する費用の助成事業の制度を確立した。</li> <li>・現在実用段階にある低コスト・低負荷型の土壤汚染調査・対策技術を公募し、7技術を採択して実証試験を実施した。</li> </ul> <p>ダイオキシン類に係る土壤汚染対策</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">常時監視地点数(14年度)</td> <td style="text-align: right;">3,300地点</td> </tr> <tr> <td>環境基準超過地点数(14年度)</td> <td style="text-align: right;">0地域</td> </tr> <tr> <td>対策地域の指定(累積)</td> <td style="text-align: right;">2地域</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">出典：『ダイオキシン類対策特別措置法に基づく対策地域の指定の報告』</p> <p style="text-align: center;">出典：『平成14年度ダイオキシン類に係る環境調査結果』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイオキシン類汚染土壤浄化技術を公募し、2技術を採択して実証試験を実施した。</li> </ul>				常時監視地点数(14年度)	3,300地点	環境基準超過地点数(14年度)	0地域	対策地域の指定(累積)	2地域
常時監視地点数(14年度)	3,300地点									
環境基準超過地点数(14年度)	0地域									
対策地域の指定(累積)	2地域									

## 評価、及び今後の課題

評 価	<p>【必要性】(公益性、官民の役割分担等)</p> <p>土壌汚染は典型7公害の一つであり、国民の健康の保護や生活環境の保全の観点から、土壌環境の保全は極めて重要な施策であり、公益性も極めて高い。</p> <p>本件施策については、農用地の土壌の汚染防止等に関する法律、土壌汚染対策法、環境基本法、ダイオキシン類対策特別措置法によりその対策が体系的に整理されており、官民の役割分担も整理されている。</p> <p>【有効性】(達成された効果等)</p> <p>環境基準等の設定について、データ収集及び実態調査の実施により一定の知見が集積された。</p> <p>農用地及びダイオキシン類土壌汚染対策については、農用地土壌汚染防止法及びダイオキシン類対策特別措置法の円滑な施行により着実に事業が実施されている。</p> <p>市街地等土壌汚染対策についても、土壌汚染対策法が円滑に施行された結果、着実に事業が実施されている。</p> <p>【効率性】(効果とコストとの関係に関する分析等)</p> <p>農用地土壌汚染については汚染が広域的であること、またダイオキシン類土壌汚染については汚染が比較的広域に及び、人の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあることから、公的に対策事業を実施することが適当であり、地方公共団体が常時監視に努め、汚染地域を的確に把握して適切な対策を実施することにより、土壌汚染対策が図られている。</p> <p>市街地等の土壌汚染対策については、汚染の範囲が比較的局所的であり、私有財産である土地を対象とするものであることから、まず、汚染の有無を把握するための調査は、土地の状態につき責任を有し、また、調査を行うために必要な土地の掘削等に関する権原を有する土地所有者等が行うこととした。そして、汚染が判明し措置が必要な場合には、汚染者負担の原則に則り、汚染原因者に実施を求めることとなっている。</p> <p>このように、汚染の様態に応じて土地所有者・汚染原因者等の関係者との適切な役割分担がなされていることから、効率的に施策が実施されていると判断できる。</p> <p>目標に対する総合的な評価</p> <p>関係法制度の円滑な施行により対策事業が着実に実施され、目標の達成に向け順調に進展しており、引き続き法の円滑な施行に努める必要がある。</p>
-----	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>農作物経由の有害物質暴露・土壌生態系等に関する基準策定、未規制物質による土壌汚染といった新たな問題があり、これらに対応するための取組を引き続き行っていく必要がある。</p>
今後の課題	<p>環境基準等の設定、見直し等が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有害物質の毒性情報に関する知見の収集及び基準値等設定のための検討調査</li> <li>・農作物経由を含めた多様な暴露リスクを考慮した土壌環境基準の検討</li> <li>・土壌生態系等の保全の在り方の検討</li> <li>・全国の土壌生態系の実態の把握</li> <li>・肥料等による土壌環境への影響実態把握</li> </ul> <p>農用地の土壌汚染対策が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常時監視、客土等の対策の円滑な推進</li> <li>・カドミウムの国際食品規格についての議論の動向を踏まえた新たな農用地土壌汚染対策の在り方の検討</li> </ul> <p>市街地等の土壌汚染対策が必要である。</p> <p>&lt;市街地等の土壌汚染対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法の施行を円滑に進めるための、負担能力の低い者に対する支援の着実な実施</li> <li>・基準項目以外の物質による土壌汚染に関する調査・対策手法検討</li> <li>・低コスト・低負荷型土壌汚染調査・対策技術の評価・普及</li> <li>・土壌汚染問題に係るリスクコミュニケーションの円滑な実施の推進</li> </ul> <p>&lt;ダイオキシン類に係る汚染土壌対策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常時監視、汚染土壌の処理等の措置の円滑な推進</li> <li>・ダイオキシン類による汚染土壌の浄化技術の評価・普及</li> </ul>

### 政策への反映の方向性

反映方向分類	理由の説明
1	<p>環境基準等の設定については、農作物経由の有害物質暴露、土壌生態系等に関する基準策定の検討に向け、更なる知見の集積のための調査が必要である。</p> <p>市街地土壌汚染対策については、継続的に事業を進めていくとともに、新たな課題となっている鉛による射撃場の土壌汚染対策のための調査が必要である。</p> <p>農用地の土壌汚染対策については、カドミウムの国際食品規格についての議論の動向を踏まえた新たな農用地土壌汚染対策の在り方の検討が必要である。</p>

【別紙】

事務事業シート

施策名	- 4 土壌環境の保全	
施策共通の 主な政策手段等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌汚染対策法</li> <li>・農用地の土壌の汚染防止等に関する法律</li> <li>・ダイオキシン類対策特別措置法</li> </ul>	
事務事業名 (関連下位目標番号)	事業の概要	主な政策手段等
環境基準等の設定調査 (下位目標1)	<p>・環境基準等の設定及び見直しについては、常に適切な科学的判断が加えられ、必要な改定がなされることが必要なことから、有害物質の毒性情報に関する知見の集積等を実施し、基準等の設定、見直しを実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基本法</li> <li>・農用地土壌環境基準等検討調査 (37百万円)</li> <li>・市街地土壌環境基準等検討調査 (84百万円)</li> <li>・ダイオキシン類土壌環境基準等検討調査 (30百万円)</li> </ul>
農用地の土壌汚染対策の推進 (下位目標2)	<p>・農用地土壌の汚染に起因する有害な農畜産物の生産、農作物等の生育の阻害を防止するため、農用地土壌汚染防止法に基づく対策を推進。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農用地土壌汚染防止対策費 (86百万円)</li> </ul>
市街地等の土壌汚染対策の推進 (下位目標3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有害物質により汚染された土壌による人の健康被害の防止を図るため、平成15年2月に施行された土壌汚染対策法に基づき汚染の状況の把握、及び汚染の除去等の措置を講じることによる、市街地等における土壌汚染対策を推進。</li> <li>・ダイオキシン類に係る土壌汚染の未然防止及び汚染土壌の改善を図るため、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく汚染土壌の処理等の対策を推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌浄化施設に係る税制優遇措置(固定資産税・特別土地保有税)</li> <li>・政府系金融機関による土壌汚染対策の措置に対する低利融資制度</li> <li>・市街地土壌汚染防止対策費 (987百万円)</li> <li>・ダイオキシン類土壌汚染防止対策費 (1,124百万円)</li> </ul>